

鎌ヶ谷市地域福祉計画策定・推進委員会（第3回会議）会議録

日 時：平成31年1月28日（月）13時30分～15時

場 所：鎌ヶ谷市総合福祉保健センター4階会議室

出席者：九谷林太郎副委員長、石川宏貴委員、大城翔平委員、馬場一郎委員、徳田訓康委員長、三浦弘委員、山本幸子委員、福澤明二委員、近松光夫委員、田邊光子委員、中野洪委員 以上11名

欠席者：川村浩幸委員、山根亜紀委員 以上2名

事務局：社会福祉課 高橋徹課長、白藤盛敏課長補佐、會澤修主査、佐々木信悦主査補、鈴木里佳主事、鈴木隆之介主事 以上6名

関係者：鎌ヶ谷市社会福祉協議会 高橋良文事務局次長 以上1名

公開・非公開の区分：公開

傍聴者：0名

次 第：1 開会

2 委嘱状の交付（三好志都美委員退任に伴う大城翔平委員に対する交付）

3 議題

（1）会議録署名人の選出について

（2）第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画の進捗管理・評価について

（3）その他

4 閉会

会議録

1 開会

2 委嘱状の交付

自己紹介

課長（高橋）挨拶

皆さま方には多大なご協力を賜り、平成28年6月に第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画を策定した。この計画は、地域福祉の担い手の育成や、支援を必要とする方の相談体制の充実など、様々な生活課題を地域全体で取り組むことにより、これまで以上に、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことをめざすものである。計画策定から2年が経過し、平成29年度の事業が終わったので、この計画に位置付けられた93個の事業に対して、各事業担当課に進捗状況の確認や自己評価を出してもらった。そして、委員の皆様方のご協力をいただき、課題解決につながるご意見や、協働できるものなどを数多くご提案いただいた次第である。真摯なご意見や率直なご意見に感謝申し上げます。これらの意見に対して、さらに各事業担当課に今後の考え方を確認した。今日は、これらを報告させていただくとともに、鎌ヶ谷市が直面している課題やこれからの地域福祉のあり方についてご意見を頂ければと思う。

徳田委員長

今回は、第3期地域福祉計画に位置付けられた平成29年度における担当課が提出した各事業の進捗状況を我々委員が評価することになる。

本日の出席委員は13名中11名である。傍聴の希望者はいない。

3 議題

(1) 会議録署名人の選出について

徳田委員長

会議録署名人については、名簿順での選出とし、三浦委員と山本委員とし、会議録は要点筆記としたい。

(2) 第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画の進捗管理・評価について

徳田委員長

議題(2)第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画の進捗管理・評価について、事務局に説明を求める。

事務局(白藤)

配布資料の確認をしたい。

- ・第3回会議次第
- ・鎌ヶ谷市地域福祉計画策定・推進委員会委員名簿
- ・席次表
- ・資料1 平成29年度 第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画の進捗管理・評価(総括)
- ・資料2 第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画(平成29年度事業)に対して委員から寄せられた意見と市の考え方
- ・資料3 第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画 進捗管理・評価シート(平成29年度事業)

以上である。

さて、今回も本市の福祉における主要事業である93という多くの事業に事前に目を通していただき感謝する。皆様の貴重なご意見に対し担当課においては一所懸命回答をさせていただいた。このような地道な取組は必ず本市の行政のレベルアップにつながるものと確信している。

資料1の地域福祉計画の進捗管理・評価(総括)をご覧いただきたい。

鎌ヶ谷市では、平成28年度から平成32年度までの5年間、地域福祉を推進するための指針として、平成28年6月に「第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画」を策定した。

本計画は、「思いやりと支えあいのあるまち かまがや」をめざして、4つの基本目標、10の施策、93事業で構成されている。

本計画に基づく地域福祉の取組を効果的かつ継続的に推進していくために事業展開についての評価を行い、その都度見直しができるよう以下のように「計画の進捗・管理・評価」を行っていく。

1 進捗管理・評価

鎌ケ谷市及び鎌ケ谷市社会福祉協議会の取組（公助の部分）において、市の地域福祉計画や社会福祉協議会の地域福祉活動計画の進捗管理を行い、計画に基づく事業展開ができたのかを検証する。その結果を市民や関係団体の代表者からなる「鎌ケ谷市地域福祉計画策定・推進委員会」に報告し、意見をいただくこととしたい。

2 進捗管理・評価の項目

計画の進捗管理・評価にあたっては、以下の項目について実施する。

資料3の進捗管理・評価シートは、計画に基づく年度内の取組状況（具体的な取組、事業展開に対する成果）及び取組内容の評価（進捗状況、課題や今後の方針）について各担当課からの報告をまとめている。

資料2の委員から寄せられた意見と市の考え方は、委員からの市に対する意見・要望や市民・地域・関係団体に対する提案、それらを受けて各担当課が今後の取組の考え方を答える形となっている。

3 評価体制（スケジュール）

(1) 計画の進捗管理・評価シートの作成（6月～8月）

進捗管理・評価シートを作成し、当該年度の事業が達成できたかどうかを各所属単位で事業の評価を行う。

(2) 地域福祉計画策定・推進委員会での評価（9月～11月）

行政が記載した課題や今後の取組方針などに対し、市民、地域が解決できることや、行政への要望など、協働・共助の視点に立ったご意見を鎌ケ谷市地域福祉計画策定・推進委員会からいただく。

(3) 評価結果の報告、公表（12月～1月）

地域福祉計画策定・推進委員会からの評価結果を受け、市（事業を行っている担当部署）及び社会福祉協議会、もしくは活動団体へ報告を行い、その後、市ホームページ等を通じて評価結果を公表する。

(4) 事業、次年度の取組みへの反映（2月～翌年度）

評価結果（委員会から課題解決につながる協働・共助の意見、提案等）を受け、事業の主体が市の場合は、地域福祉計画に示された施策の方向に沿って具体的な事業や各分野別の個別計画への反映を、事業の主体が活動団体や社会福祉協議会の場合は、それぞれの活動方針等に反映していただき、次年度の取組みに向けてそれぞれ連携を図りながら着手する。

4 進捗状況・評価の結果

平成29年度事業に対する評価としては、順調に進んでいる（A評価）が62事業、57パーセント（前年度64事業、59パーセント）、概ね順調だが、不十分な点が少しある（B評価）が38事業、35パーセント（前年度36事業、33パーセント）

ント)で、順調に事業を実施できたのは合計100事業、92パーセント(前年度同
比100事業、92パーセント)であった。

また、実施されている部分もあるが不十分な点が多い(C評価)は5事業、5パー
セント(前年度6事業、6パーセント)、実施方法を含め改善が必要である(D評価)
は3事業、3パーセント(前年度2事業、2パーセント)という結果になっている。

資料3「第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画 進捗管理・評価シート(平成29年度事
業)」をご覧いただきたい。その中で実施されている部分もあるが、不十分な点が多
い(C評価)は、地域福祉コーディネーターの研修(No.18)が不十分であるこ
と、また昨年同様に災害時要援護者個別計画作成事業(No.63)と災害時要援護
者リスト(避難行動要支援者名簿)整備事業(No.64)が進んでいないこと、在
宅医療・介護連携の推進(No.87)と新しい介護予防・日常生活支援総合事業
(No.93)については、専門職向けの研修や多様なサービスの構築が不十分であ
ることがあげられている。

今後の方針については、地域福祉コーディネーターの研修(No.18)では、平
成29年度途中から6地区社会福祉協議会の事業を統括する人材を雇用したので、各
地区コーディネーターとの連携を深めるとともに、今後は相談体制の強化に努めてい
く。

災害時要援護者個別計画作成事業(No.63)と災害時要援護者リスト(避難行
動要支援者名簿)整備事業(No.64)では、平成30年3月に避難行動要支援者
避難支援プラン(全体計画)を策定するとともに、6月に避難行動要支援者名簿を作
成し、避難支援等に携わる関係各課に配付した。次の段階として、自治会・民生委
員・福祉関係者などとの連携を進め、地域での支援を希望する要支援者を複数の支援
者が見守る体制の構築を進めていく。

また、在宅医療・介護連携の推進(No.87)については、鎌ヶ谷市医師会に委
託して医療介護連携室を開設した。今後は市内の医療・介護等の専門職向けの研修会
を開催し、専門職同士の顔の見える関係づくりを進めていく。

新しい介護予防・日常生活支援総合事業(No.93)については、新たな訪問型
サービスや通所型サービスについて介護サービス事業者や関係団体と協議を進め、高
齢者自身が支え手としての地域づくりを目指していく。

実施方法を含め改善が必要(D評価)の主な要因は、成年後見制度の周知と活用
(No.83)が生かされていないこと及び市民後見人の育成(No.84)につい
ては、社会福祉協議会、障がい福祉課、高齢者支援課で今後実施の方向性について検
討が必要としている。

国では、成年後見制度の利用の促進に関する法律(平成28年5月13日施行)に
基づき、成年後見制度利用促進基本計画を策定した。市においても、関係各課及び関
係事業者、NPO団体などと連携して成年後見制度の周知と活用を進めていく。

また、認知症高齢者等の増加により、専門職後見人の不足が予想されることから、
市民が後見人となる「市民後見人」養成のための研修の実施を年1回開催している。
より多くの市民参加や研修開催の周知に力をいれていく。

なお、資料2については、事前に目を通していただいていると思うが、個々の事業において委員から寄せられた意見とそれに対する市の考え方をまとめたものである。また、本計画をより実効性の高い計画とするため、次年度以降も引き続き、本計画の進捗状況を管理していく。

徳田委員長

No. 64の災害時要援護者リスト整備事業の要支援者のうち地域で共有することについて同意した者が0となっている理由は何なのか。

事務局

自連協、自治会等への周知・説明に時間を要し、平成29年度時点で実施ができていないことから0報告となった。今週末の1月31日と2月1日にかけて約4,200人に対して同意確認を行う。平成30年度では実績報告できる。

山本委員

支援を希望する人は、この4,200人に限らないのではないか。

事務局

まずは、地域福祉計画で位置づけたカテゴリーの4,200人の回答の状況を分析したい。今後、各自治会長や各民生委員にご意見を伺い課題を抽出したり、地域包括支援センターや福祉事業者から足りないところがあればご指摘いただきたいと考えている。3月の民生委員児童委員協議会会長会で最初の状況報告をしたい。

馬場委員

災害時に避難が必要な人の把握と安全確保策の推進（No. 62～No. 64）7ページの今後の取組の考えで福祉避難所が現在9カ所と記載されているが、福祉避難所は当初は1カ所しかなかったと思う。

事務局

今年度、特別養護老人ホームのあかり及び障がい者支援施設のもくせい園と協定を結び、社会福祉センター1カ所、特別養護老人ホーム7カ所、障がい者支援施設1カ所の計9カ所になった。社会福祉課所掌の要支援者避難支援制度とその要支援者の受入れ先である福祉避難所の協定締結や避難所運営委員会の設立も同時に進めていく必要があるので、庁内連携を促進したい。

三浦委員

要支援者に対する同意確認については、11月の自連協理事会にも諮っているものである。

事務局

報告が漏れたが、その通りである。

福澤委員

7ページに要支援者の避難状況により福祉避難所を開設することとしております。とあるが、どのような形で増やしていくのか。

事務局

地域防災計画の考えとしては、1次避難所である学校体育館などでの要支援者の避難状況により避難所運営委員会の判断、要請に基づき福祉避難所の開設をお願いすることとなるが、今回の4,200人の同意確認の回答状況により、どの地域に支援を求めている人が多いのかなど地図データも含めて出てくるので、このデータを参考に計画を立てられないかと考えている。

馬場委員

9カ所に増えたことで、避難のイメージができる気がする。データにより足りないところの施設に働きかけることができる。また、初富保険病院の施設内のスペースやベッドの空きはあるが、それを運営する人手が足りない状況である。そのような理由で福祉避難所として提供することをためらっている可能性もあるのではないか。

事務局

今お話があった、地域の施設のスペースやベッドの空き状況を調べる必要があると考える。そのキャパシティと要支援者の数と社会福祉協議会が担うボランティアの受入れについて難しい問題であるが、総合的に考えていく必要がある。

徳田委員長

せっかく集まっていたいたので、意見交換のテーマについて事務局として何か案はあるか。

事務局

委員からの意見として、地区ふれあい員と民生委員が定期的な協議の場を持ち、個人情報保護の範囲を超えない範囲で情報交換の場を設けてはどうかという意見があった。また、今回の評価でD評価となっている成年後見制度・市民後見人の育成について、それから、地域共生社会や地域包括ケアシステムを絡めた地域の総合相談窓口体制の整備の必要性などが考えられる。

徳田委員長

事務局からの提案について何か意見はあるか。

九谷副委員長

平成4年から地区ふれあい員制度をつくって、50世帯に1人という体制とした。ふれあい員の普段の生活の中で地域をそれとなく気にかけてもらい、自治会役員や民生委員に連絡することをしてもらっている。また、年に1回地区ふれあい員の集いを開催し、勉強会や情報交換をしている。今後、避難支援制度が進めばうまくネットワークが敷けるのではないかと考えている。私の自治会では福祉委員会主導で、合同委員会を年4～5回自治会役員、民生委員、地区ふれあい員が集って開いている。

山本委員

民生委員児童委員定数157人のうち主任児童委員12人を除く145人をほぼ均等に配置し、担当地区は約300世帯に1人という体制になっている。多いところで約400人の高齢者がいる。9月から11月にかけて一斉訪問をしているが、完全に目が届くというわけではない。自治会や地区ふれあい員の協力をいただけるとありがたい。

徳田委員長

自治会の地区ふれあい員と民生委員とも協力を求めている状況なので、市がイニシアティブをとって進めてもらえないか。それから個人情報の問題をうまく処理できれば問題なく運営できるのではないか。

事務局

先ほどから話題になっている避難支援制度の対象者のほとんどが高齢者である。その方たちの個人情報の地域共有の同意が得られるので、まずは同意をしてくれた人を対象に地域全体としての協力体制を始めてみたいと考えている。また、その後輪を広げた考え方が出てくるのではないか。

福澤委員

お互いに何をやっているのかわからないところもあるので、情報交換の場を設けてはどうか。例えば民生委員児童委員の毎月の定例会に地区ふれあい員の代表を参加させて連絡体制などを話し合ってはどうか。

三浦委員

異物が入ってきたと思われない程度に。

徳田委員長

以前、東部地区の民児協の会議の際に、田邊委員もご存じのとおり学校の先生を招いて情報交換をしていた。そのような感じでできないかと思う。

田邊委員

家庭に帰ってからの子どもの様子というのは学校でもわからないことがある。地域の方からの小さな情報がとても役に立つ場合がある。このような情報交換の場は非常に重要である。

山本委員

前向きに検討していきたい。

九谷副委員長

鎌ヶ谷市では、南部小学校、第四中学校、鎌ヶ谷西高校で福祉教育が平成30年度から始まっている。南部地区社会福祉協議会としては、地域の子どもを夏祭りなどの行事に積極的に参加させ、何のためにやっているのかも考えてもらう。挨拶から初めて、地域の老人などが困っていたら声をかけられるようになればよいと考えている。

馬場委員

地域包括支援センターでは、年に2回くらい民生委員児童委員の定例会に参加させてもらっている。その場に地区ふれあい員もいればよいと思う。

福澤委員

個人情報に関係から最初の30分だけ参加してもらう方法もある。

山本委員

個人情報のことばかり話しているわけではないので、それほど気を使う必要はない。

事務局

要支援者4, 200人に同意確認書を送る前に、各自治会長に体制を整えていただく意味もあり、地区の合同勉強会の開催案内を送った。5月頃を目途に同意者名簿を自治会長と民生委員児童委員に渡すことになるので、この方たちの支援についての勉強会というか作戦会議のようなものを開けないかと考えている。その場に地区社会福祉協議会、地区ふれあい員、地域包括支援センター、事業者の方などが一堂に集まってネットワークを形成できないかと考えている。この展開が発展していき、地域包括ケアシステムや地域の総合相談窓口などの考えにつながる事が理想である。

九谷副委員長

毎年自治会長が代わる状況で、今までの話が自治会に浸透しているわけではない。また、どのくらい要支援者がいるのかもわからないのでいきなりとはいかない。

事務局

まずは、地域に支援を求めている人がいることをわかっていただくため、各自治会

長には同意者名簿を受領していただくことから始めたい。その中で率先して取り組んでくれそうな自治会に取組の先行事例をつくっていただけないかと考えている。確かにまだ机上の空論の域は脱していない。

福澤委員

資料がわかりやすくまとめられている。作成は大変だったと思う。

事務局

いろいろな資料を参考に主に會澤が編集した。皆さんの意見や市の考え方が網羅されていて、いろいろな人の手や考えが入った良い資料ができたと思っている。改めて感謝申し上げる。

(3) その他

徳田委員長

そのほかには意見はないか。

事務局

避難支援の対象者は主に高齢者と障がい者であり、その支援を社会福祉課は担っているが、一方、生活困窮者に対する支援や子ども学習支援事業も実施している。課題としては教育委員会への情報提供など課題は多いが進めていきたい。バランスよく包括的に事業を実施していきたい。

近松委員

社会福祉課は、地域福祉について全般的に扱っていて大変だが、自然災害はいつ起こるかわからない。まずはこの避難支援制度を最優先に取り組むべきであると考え。地域を巻き込んだ大変な事業であるが頑張ってもらいたい。

事務局

現時点での最重要課題であると認識している。

徳田委員長

それでは、これをもって、鎌ヶ谷市地域福祉計画策定・推進委員会第3回会議を閉会とする。皆さん、長い時間お疲れ様でした。

4 閉会

九谷副委員長の挨拶

この推進委員会の目的は大変重いものがある。みんなが普段から少しずつでも進めていこうとする気持ちが大事である。今後も皆さんと協力して進めていきたい。

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため、次に署名する。

平成31年2月13日

氏名 三浦 弘

氏名 山本 幸子